

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

平成 26 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	I C T活用指導力向上研修プログラムの開発 ～ I C T活用リーダー養成研修プログラム～
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none">・上越教育大学附属中学校の「フューチャースクール推進事業」、「学びのイノベーション事業」の取組事例や県内での先進的な取組事例を教材とした I C Tリーダーの養成を図る。・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員が参加するため、校種間の連携を踏まえた開発を行うことができる。・S N S (Social Networking Service)を利用することで、学校間や異校種間の情報交換やデータの共有、研修後のフォローアップができる。・研究協力員が研究授業を行うことで、教科指導における I C T活用を自校や近隣の学校に提案する。・上越教育大学と連携することで新潟市と上越市にそれぞれの研修拠点を設けることができ、広い面積をもつ新潟県を広域でカバーできる。

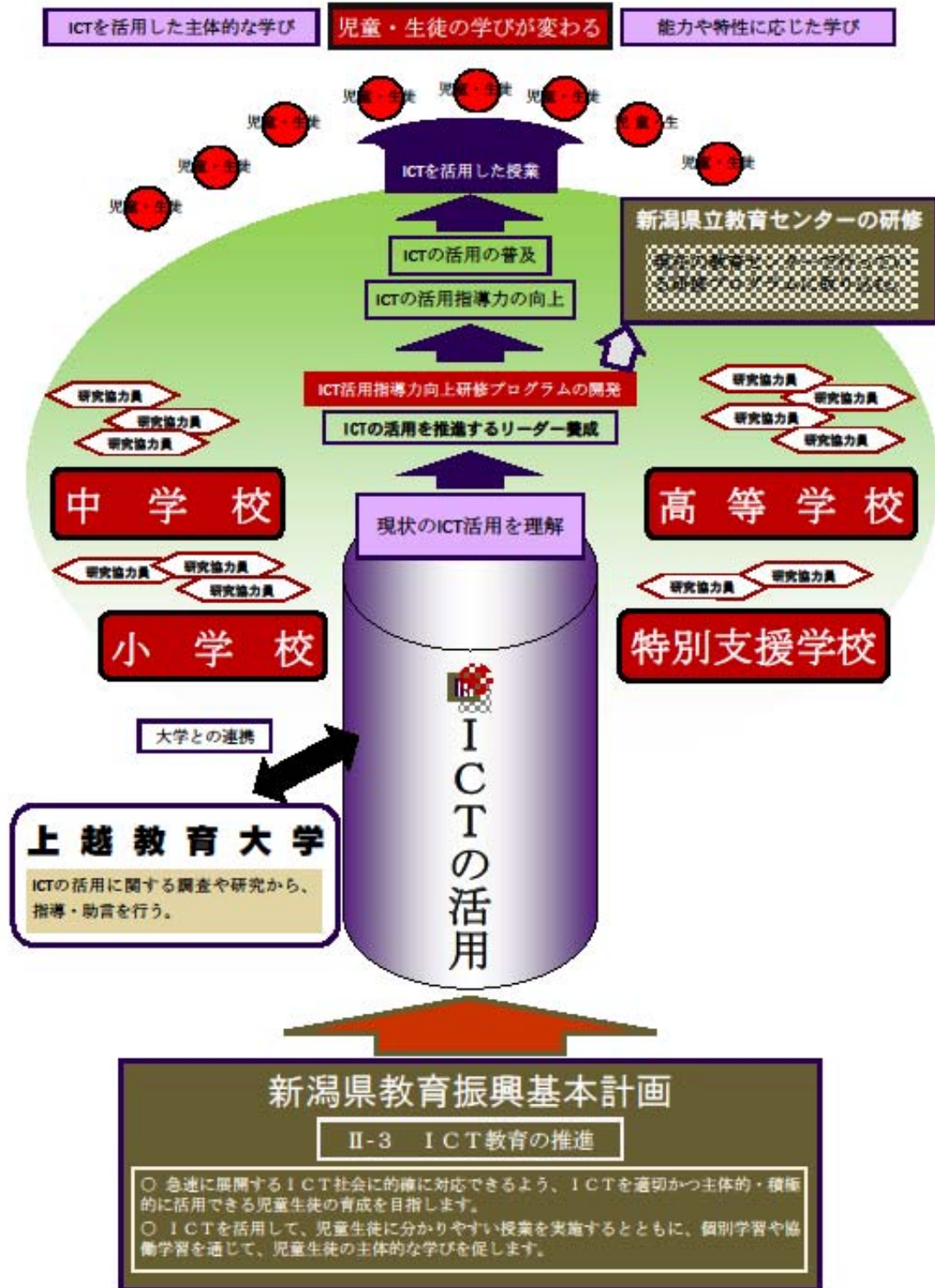
平成 2 7 年 3 月

機関名：新潟県立教育センター 連携先：国立大学法人上越教育大学

プログラムの全体概要

平成26年7月作成

..... ◉ プログラムの全体概要 ◉



I 開発の目的・組織

1 開発目的

新潟県教育委員会では、「新潟県情報化プラン」に基づき、教員のICT活用指導力の向上を推進する目的で、新潟県立教育センター(以下「県立教育センター」)において、平成25年度よりICT教育の研修に取り組んでいる。しかし、最新の情報端末機器などの開発スピードに機器整備が追い付かない状況にあることや、専門的な指導体制が整えられていないことが大きな課題となっている。また、全県の教員に対するICT教育の普及啓発のための研修を進める一方で、今後ICT教育を積極的に推進するリーダー的教員の育成も必要とされていることから、大学や市町村教育委員会と連携して、これらの課題に対応するより実践的で効果的な研修プログラムを開発することが求められる。

上記の状況を踏まえて、上越教育大学附属中学校の「フューチャースクール推進事業」や「学びのイノベーション事業」の取組事例等の先進的なICT教育の現状を理解した上で、本県の喫緊の課題であるICT活用指導力の向上を推進するための研修プログラムを作成し、その効果を検証する。教科指導においてICTを活用した授業実践を行い、授業力の向上を図る研修プログラムを開発するとともに、ICT教育を普及するリーダー的人材を育成するプログラムの開発を行う。

2 開発方法

以下のような方法を実践する。

- ・ ICT教育の先進的事例を教材として、具体的なICTの活用状況を学ぶ。
- ・ ICTの活用について、各学校や地域の現状を調査研究する。
- ・ 教科に応じたICTの活用方法を学び、ICTを活用した授業計画を作成する。
- ・ ICTを活用した研究授業を行い、授業改善の成果を考察する。
- ・ 情報モラルについての知識的理解と、事例から対処法を学ぶ。
- ・ ICT教育のリーダー的な役割について研究し、リーダーとしての資質を育成するために必要な要素を考察する。

このプログラムの研究協力員として、小学校から3人・中学校から3人・高等学校から4人・特別支援学校から2人に協力していただき、プログラムの効果について検証していった。

3 開発組織

○県立教育センター・上越教育大学担当者

所 属・職 名	氏 名	担 当・役 割
新潟県立教育センター 所長	小野島恵次	全体統括
次長	菅原誠廣	事務取扱責任者
副参事	桑原勇重	企画担当責任者
指導主事	菊池啓一	委員・研修運営・高等学校研修担当
指導主事	加藤伸泰	委員・研修運営・高等学校研修担当
指導主事	石田清彦	委員・研修運営・高等学校研修担当
指導主事	山下幸治	委員・研修運営・高等学校研修担当
指導主事	佐藤栄策	委員・小・中学校研修担当
指導主事	西村武志	委員・特別支援学校研修担当

上越教育大学副学長	天野和孝	大学側責任者
教授	石野正彦	大学側企画担当者
特任准教授	中野博幸	大学側委員・企画運営
特任准教授	清水雅之	大学側委員・企画運営
上越教育大学附属中学校主幹教諭	清水陽一郎	大学側委員・企画運営

○研究協力員

学 校 名	職 名	氏 名	教 科
妙高市立斐太南小学校	教諭	渡部 直樹	
長岡市立大島小学校	教諭	高松 敏之	
関川村立関川小学校	教諭	阿部 順延	
上越市立城北中学校	教諭	大崎 貢	理科
燕市立吉田中学校	教諭	渡邊 幸彦	技術・家庭
新発田市立第一中学校	教諭	畑山 倫和	国語
県立荒川高等学校	教諭	片桐 泰紀	芸術(美術)
県立長岡商業高等学校	教諭	櫻井 直子	家庭
県立柏崎高等学校	教諭	新保 隆	数学
新潟市立万代高等学校	教諭	高橋 満	外国語
県立江南高等特別支援学校	教諭	阿部 淳一	
県立小出特別支援学校	教諭	櫻井 康平	

○「ICT活用指導力向上研修プログラムの開発」の連絡協議会

日 時	協 議 会	会 場
5月29日	連絡協議会事前打合せ	上越教育大学
6月 9日	第1回連絡協議会	県立教育センター
7月14日	第2回連絡協議会(第1回研究会後)	県立教育センター
10月14日	第3回連絡協議会	上越教育大学
12月10日	第4回連絡協議会	上越教育大学
2月 3日	第5回連絡協議会	県立教育センター

II 開発の実際とその成果

1 研究協力員の決定

新潟県は面積が広いいため、なるべく地区の偏りがないように、小・中・高・特別支援学校から協力員を募ることとした。小学校・中学校は、上・中・下越地区の各教育事務所に依頼し、ICTに関する取組を行っている教員を推薦してもらい決定した。高等学校は、ICT教育を推進できる実績を有する教員に依頼し決定した。特別支援学校は、ICT機器の導入を検討している学校の校長に依頼し決定した。

2 対象・人数・日程・期間・会場・講師

- ・ 対象と人数は、小学校から3人、中学校から3人、高等学校から4人、特別支援学校2人の合計12人の研究協力員とした。

- ・ 日程は、県立教育センターが3日間と、上越教育大学とその附属中学校が1日で、計4回の研究会を行う。加えて、11月から12月中に1回研究授業を実施する。

第1回研究会【7月14日(月) 県立教育センター 101～104多目的室、パソコン室】

日 程	研 究 方 法 及 び 内 容	指 導 者
9:30～10:00	受付	県立教育センター所長 県立教育センター指導主事
10:00～10:15	開会あいさつ	
10:15～11:00	全体ガイダンス ※研究開発の流れ、進め方について、教科指導におけるICT活用と本県の現状・課題についての説明	
11:00～12:00	講義「学校教育における情報化及び国内外の取組の様子」	上越教育大学 石野 正彦 教授
13:00～13:30	実践発表「ICT活用した授業の成果について」	上越教育大学附属中学校 小池 克行 教諭
13:40～15:20	調査研究「各学校におけるICTの活用に関する現状と課題」 ※事前課題から学校の現状とICTの活用について研究協議を行う。	県立教育センター指導主事
15:30～16:00	説明「上越教育大学のSNSの活用について」	上越教育大学 清水 雅之 特任准教授



第1回研究会の様子



第1回研究会 石野教授の講義



第1回研究会の様子

第2回研究会【9月12日（金）県立教育センター 105多目的室】

日 程	研 究 方 法 及 び 内 容	指 導 者
9:30～10:00	受付	県立教育センター指導主事 上越教育大学 清水 雅之 特任准教授 県立教育センター指導主事
10:00～10:10	諸連絡	
10:10～11:00	講義「ICTの授業活用の実際について」	
11:10～12:00	研究協議「ICTの授業活用について」 ※授業のレシピを考えながら、活用方法について研究協議を行う。	株式会社JMC事業推進部 今泉 慧子 様 県立教育センター指導主事
13:00～15:00	講義演習「学校における情報モラルに関する事例検討」	
15:10～16:00	研究協議「各学校の情報モラルに関する現状について」 ※課題をもとに各学校の情報モラルについて研究協議を行う。	



第2回研究会の様子



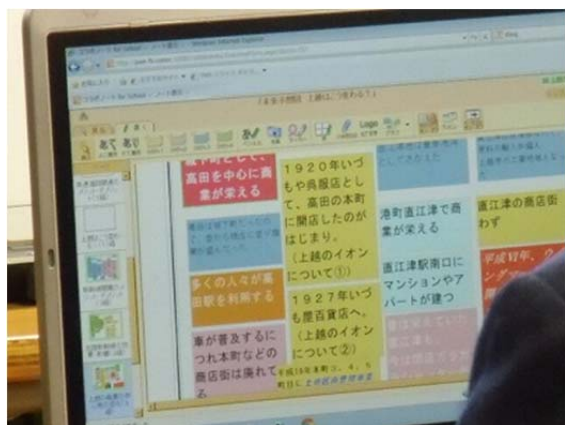
第2回研究会 校種ごとのグループ協議



第2回研究会 情報モラルの研究

第3回研究会【10月28日(火) 上越教育大学・上越教育大学附属中学校】

日 程	研 究 方 法 及 び 内 容	指 導 者
10:00～10:30	受付	県立教育センター指導主事 上越教育大学附属中学校 教諭等 上越教育大学附属中学校 教諭等 上越教育大学教授等 県立教育センター指導主事
10:30～10:40	諸連絡	
10:45～11:35	調査研究「ICTを活用した授業実践の視察」	
11:45～12:35	研究協議「授業担当教諭との研究協議会」	
13:30～16:00	研究協議「授業におけるICT活用の研究」 ※事前課題をもとに授業のICT活用について研究協議を行う	



第3回研究会 先進校視察



第3回研究会 先進校視察



第3回研究会 先進校視察



第3回研究会 先進校視察



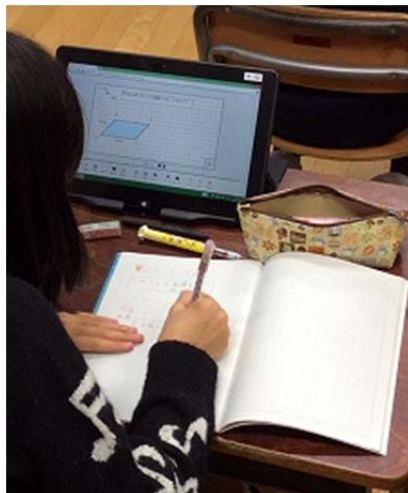
第3回研究会 附属中学校との研究協議



第3回研究会 グループ協議

研究授業【11月から12月中の1日 各研究授業実施校】

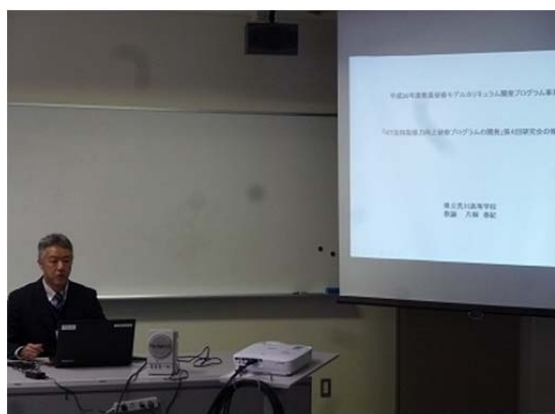
- ・ 研究協力員が各所属校でICTを活用した研究授業を行う。この研究授業を校内の職員が参考にする事で、校内研修会となる。研究授業終了後に、県立教育センターの指導主事、上越教育大学の教授を含めて研究協議を行う。
- ・ 研究協力員は、所属校での研究授業の他に、他校を1つ選んで授業参観する。



研究授業の風景

第4回研究会【1月16日（金）県立教育センター 101～106多目的室、パソコン室】

日程	研究方法及び内容	指導者
9:30～10:00	受付	県立教育センター指導主事 研究協力員
10:00～10:10	諸連絡	
10:10～12:00	実践発表「ICTを活用した授業実践の成果と課題について」1	上越教育大学教授等 研究協力員
13:00～14:00	実践発表「ICTを活用した授業実践の成果と課題について」2	上越教育大学教授等
14:10～14:40	研究協議資料作成	県立教育センター指導主事
14:40～15:30	研究協議「研修プログラムについての効果や改善点についての協議」	県立教育センター指導主事 上越教育大学教授等
15:30～15:50	講評	上越教育大学 石野 正彦 教授
15:50～16:00	閉会あいさつ	県立教育センター所長



第4回研究会 実践発表



第4回研究会 実践発表



第4回研究会 実践発表



第4回研究会 准教授からの講評



第4回研究会 全体講評

3 研究会のための課題とSNSの活用について

このプログラムは、上越教育大学の学校教育実践研究センターSNSを活用させて頂いた。

第1～3回研究会では、事前課題として、各学校のICTに関する整備状況や教員のICTに関するスキル、情報モラルに対する理解度など、研究協力員の所属校の環境を確認するための調査を実施した。その状況を把握した上で、研究協力員の所属校で研究授業を行うための学習指導案の作成を行い、データの受け渡し等でSNSを活用した。

第4回の研究会の課題として、研究授業の総括を作成し、実践発表で協議した。また、この教員研修モデルカリキュラムの成果と課題について、研究協議資料を作成してまとめた。

課題の一覧は次のとおりである。

名 称	課 題 名	SNS等の活用
第1回研究会	レポート作成「各学校における情報化に対する現状と課題」	メールにて送付、回収
第2回研究会	レポート作成「各学校における情報モラルに関する事例とその対応について」	SNSにて配信、回収
第3回研究会	指導案「ICTを活用した授業を実践するための学習指導案」	SNSにて配信、回収
研究授業	各所属校で実施のため課題はなし	SNSにて学習指導案の受け渡し
第4回研究会	レポート作成「授業実践のまとめ・報告」	SNSで配信、各自で印刷して持参
研究協議資料	研究会で作成 「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム全体についてのアンケート・総括」	県立教育センターのパソコン室で作成 その後協議に使用

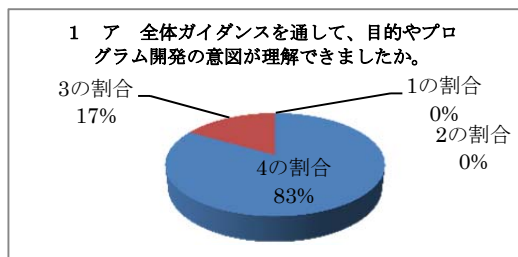
4 研究会のアンケート集計結果について

(1) 第1回研究会のアンケート集計

① 全体ガイダンス

ア 「体ガイダンスを通して、目的やプログラム開発の意図が理解できましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	10
3の割合	2
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



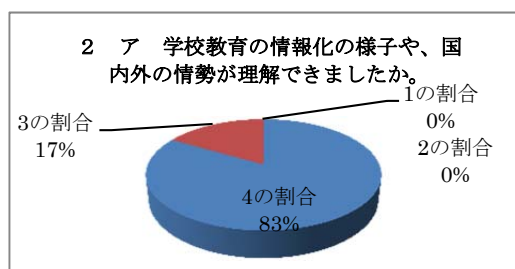
イ 全体ガイダンスのご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

多くの先生方にICT活用の効果を普及できるように微力ながら努めたいと思いました。
プログラム開発の必要性やこの研究の意図が理解できました。この1年間の学びを有意義なものにしたいです。
ICT教育の有効性と必要性を感じることができました。機材や環境がないと実践が難しいですが、私自身、微力ながら良い実践を積み、その必要性を訴えていくボトムアップの姿こそが必要だと思いました。
この研修を通して一つでも多く学んで活かしていきたいと感じました。

② 講義「学校教育における情報化及び国内外の取組の様子」

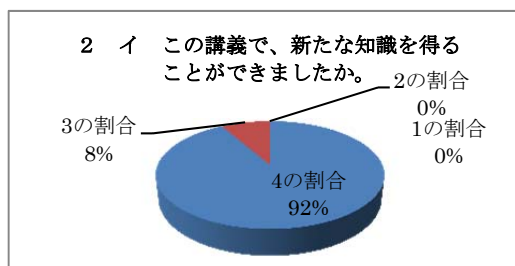
ア 学校教育の情報化の様子や、国内外の情勢が理解できましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	10
3の割合	2
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



イ この講義で、新たな知識を得ることができましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	11
3の割合	1
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



ウ この講義のご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

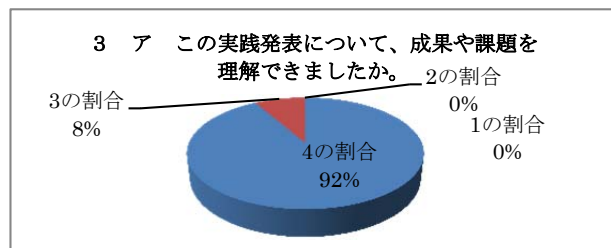
「世界の情報量が劇的に増えている」というお話、授業の進め方を変えていく必要性、短い時間でしたが、とても内容が濃く学びになりました。

情報化社会の現状と課題について、日本と世界の国々の比較が印象的です。
昨年度の県センの研修「ICTの活用を図る講座」でも富山大学の高橋純先生から講義でお聞きしていたことも思い出しました。海外で視察する場所は、比較的活用が進んでいる所であり、日本以上に格差も大きいのではないかと思います。しかし、世界の先進的なものに学び、自分自身の指導に活かしていくことは大切だと思います。
急激な知識構造の変化に対応し、従来の授業観を見直し、思考力を深める授業をしなければならないと感じた。ICT化の活用が急がれるが、本質的な学びの構造を理解した上で、有効的に取り入れて行きたい。
韓国はICT教育が進んでいると感じた。ICTが使えない教員はやめざるを得ないという言葉が印象的であった。

③ 実践発表「ICTを活用した授業の成果について」

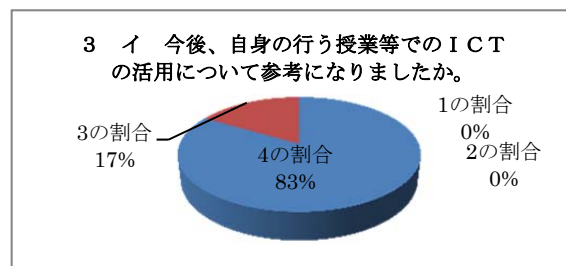
ア この実践発表について、成果や課題を理解できましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	11
3の割合	1
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



イ 今後、自身の行う授業等でのICTの活用について参考になりましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	10
3の割合	2
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



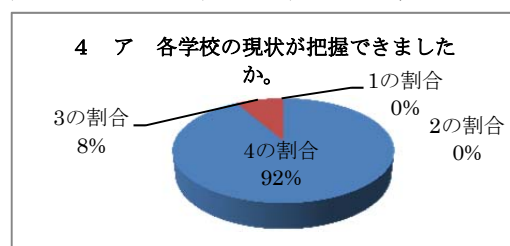
ウ この実践発表のご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

各教科で全担任が使っているという点が興味深かったです。
ICTは子どもたちが関わり合うために使うツールだと思います。
ICTの活用が子どもの学びを深めたり広げたりすることへの一助となるよう、参考にさせていただきたいと思います。
学校全体で教職員が協働して教科横断的にICT活用することが重要であると感じた。学び合う子ども達がともに高め合っている学習方法は是非取り入れていきたいです。
中学校の様子が分かり参考になりました。高校にどう繋げていくか考えていきたい。
授業中に一人一台のiPadを使用している状況に驚いた。

④ グループ協議「各学校におけるICTの活用に関する現状と課題」

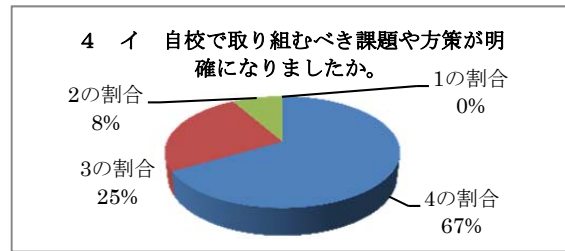
ア 各学校の現状が把握できましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	11
3の割合	1
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



イ 自校で取り組むべき課題や方策が明確になりましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ)
この中から1つ選んでください。

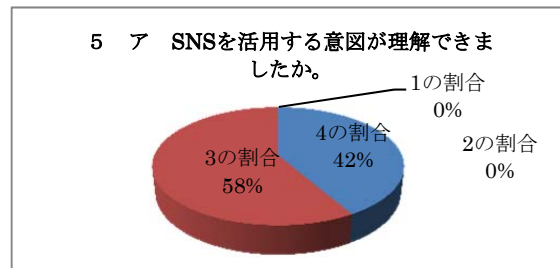
4の割合	8
3の割合	3
2の割合	1
1の割合	0
合計	12



⑤ 説明「上越教育大学の SNS の活用について」

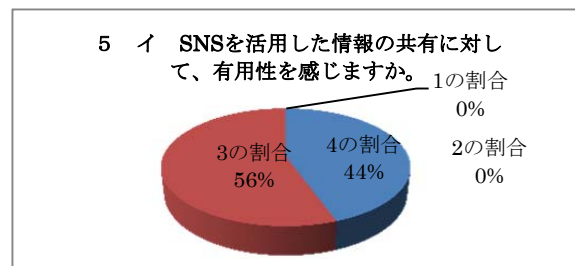
ア SNSを活用する意図が理解できましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	5
3の割合	7
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



イ SNSを活用した情報の共有に対して、有用性を感じますか。

4の割合	4
3の割合	5
2の割合	0
1の割合	0
合計	9



ウ ご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

回数を重ねていくうちに、書き込みやすくなるのかなと感じています。
このサイトを探すのに苦労している現状です。スキルアップに努めます。
ブラウザで確認するのが手間ですかね、そのせいで、みなさん確認しないのかも。
有用だと思います。RSSリーダーで更新を確認できるか試したいと思います。
個に即した対応がこのようにして可能になっていくのだなと思いました。
スレッドへ書き込みがあったときに通知等が無いので、常に確認をしていないと、返信が遅れてしまう。

⑥ 一日を通して、ご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

3や4でのお話をお聞きして、環境にかなり差があることがわかりました。自校の環境で、更に自分の立場でできる学習活動を提案できればと思いました。第2回目の研修が9月にありますので、自校での取組について夏季休暇中に考えたいです。
環境整備の格差がありますが、子どもの学力を高めるための有効な手立ての一つとして、発信できるように研修に努めて参ります。
市町村や学校により環境の違いがかなりあることがわかりましたが、その中でできること、しかも自分だけでなくどの先生でもできることを考えたいと思いました。今後もよろしく願いいたします。

私自身もICT活用による教育効果の期待は「個に応じた学習」と「協働学習」です。家庭科教育の中でも、「実習での個別対応」、「生活者の視点から他者と話し合い社会の課題を解決する学習」が様々な制約の中で困難でしたが、ICT活用により可能自身が、知識が浅く勉強不足を感じましたが、家庭科教育での有効的な活用をはじめとする学校の中での利活用を提案できる研究していきます。お世話になりました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

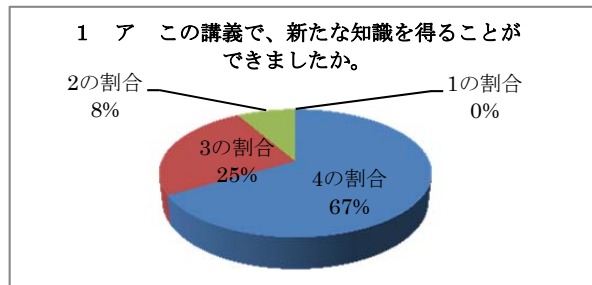
自校ではなかなか共感を得られないICTですが、これから必ず必要になる力として、情報交換しながらまずは自校で活用できる職員を増やしていきたいと思えます。

(2) 第2回研究会のアンケート集計

① 講義「ICTの授業活用の実際について」

ア この講義で、新たな知識を得ることができましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	8
3の割合	3
2の割合	1
1の割合	0
合計	12



イ ICTの授業活用の実際についてのご意見・ご感想をご記入ください。(※主な意見)

学習者にとって必要な情報がインターネット上にある環境で、今後どのような学習環境が学校に求められるのかを考えるきっかけになりました。プレゼンテーションを行う上で「発表する直前が一番学びが高まる」ということばが印象に残っています。この効果をうまく学習活動に応用していきたいです。

ICTを利用しても、情報教育を行っているとはいええないという言葉が印象に残りました。

活用の場面や方法等を積極的に学びたいです。

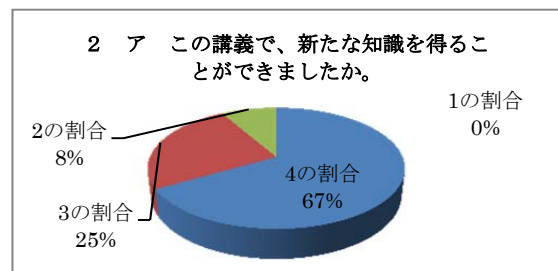
先進的な取り組みは、これらに向け夢がふくらみますが、実際これからできそうかといわれると疑問に思います。まずはできそうなことを自分から他の職員に広げたいと思えます。

シンガポールの3D映像を使った授業が気になりました。

② 研究協議「ICTの授業活用について」

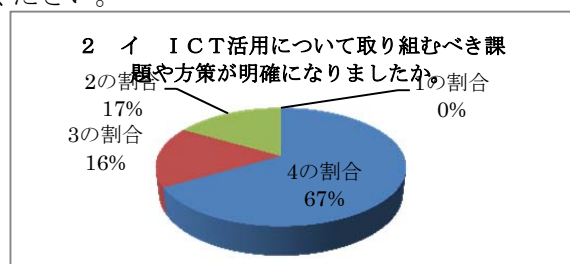
ア この講義で、新たな知識を得ることができましたか。」4(はい)・3・2・1(いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	8
3の割合	3
2の割合	1
1の割合	0
合計	12



イ ICT活用について取り組むべき課題や方策が明確になりましたか。」4(はい)・3・2・1(いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	8
3の割合	2
2の割合	2
1の割合	0
合計	12



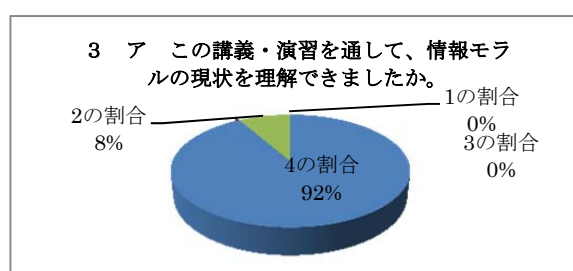
ウ この研究協議のご意見・ご感想をご記入ください。(※主な意見)

改めて iPad は環境が整えば、情報共有が簡単にでき児童の学習に有効に働くことを実感しました。
同じ教科の先生がいらっしゃらないので相談が難しい部分もありますが、他の教科からも活用の場面や方法を学びたいです。iPad については、使い慣れないと使うことにばかり集中してしまい、本題に意識がいかないと感じました。きっと機器の導入時は子どももそんなのだらうと思いました。
スケッチの共有・動作速度が重要だということが分かりました。
iPad の活用は楽しくできましたが、今回はアプリを使うことがメインになってしまいました。これから継続的に使い、操作に慣れることで、中身も深まっていくと思います。

③ 講義・演習「学校における情報モラルに関する事例検討」

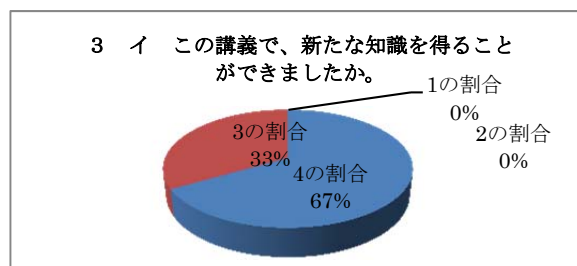
ア この講義・演習を通して、情報モラルの現状を理解できましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	11
3の割合	0
2の割合	1
1の割合	0
合計	12



イ この講義で、新たな知識を得ることができましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	8
3の割合	4
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



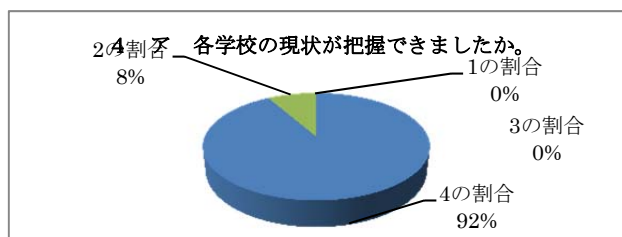
ウ この講義・演習のご意見・ご感想をご記入ください。(※主な意見)

情報モラルの必要性は以前から感じていました。小学校の場合、担任の危機感によって学習の濃淡が決まってしまうので、年間指導計画に意図的に入れるなど計画的に行っていくことが必要だと思います。
職員研修や子どもたちの授業により教材だと思いました。ご紹介いただき、ありがとうございます。実際に使ってみたいと思いました。
非常に分かりやすく参考になりました。特に職員研修での活用を考えました。自校でできる範囲でどんな研修が必要かを考える機会となりました。
著作権のこと等、我々自身が十分に理解できていないことについても、もっと学ぶ機会があればと思いました。学校の中でも教育活動に該当しない事柄が少なからずあり、著作権に引っかかる場合は多々ありそうです。
事例がわかりやすく、教員研修に有効であると感じました。
自校の職員室の情報セキュリティ環境を見直すきっかけをいただきました。

④ 研究協議「各学校の情報モラルに関する現状について」

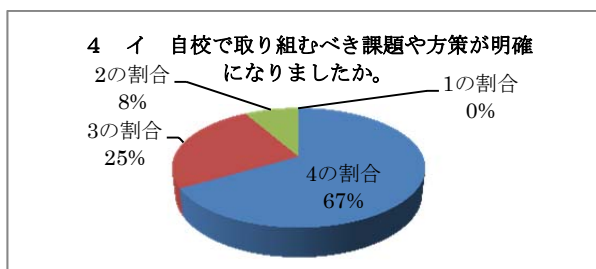
ア 各学校の現状が把握できましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	11
3の割合	0
2の割合	1
1の割合	0
合計	12



イ 自校で取り組むべき課題や方策が明確になりましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	8
3の割合	3
2の割合	1
1の割合	0
合計	12



ウ この研究協議のご意見・ご感想をご記入ください。(※主な意見)

指導計画を実際に行っていく上で、どのように教職員に関心をもってもらい、実現させていくのか、具体的な助言をいただくことができました。
指導計画に明確に位置づけなければ、学校としての情報モラル指導につながらないことが改めてよくわかりました。
各校の課題とそれを解決する技術の学習・普及のバランスが難しいと感じました。
情報モラルについての教育は、各教科と連携を図り、指導計画のもと計画的に行っていくべきだと感じました。
どの学校も情報モラルに関して問題を抱えていて色々と情報交換ができた。

⑤ 一日を通して、ご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

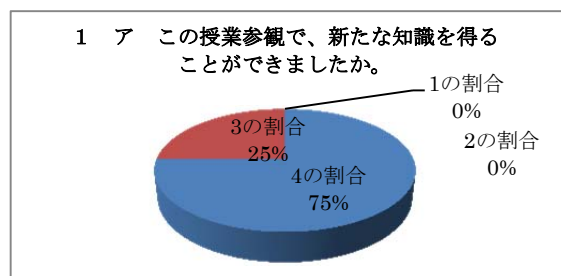
今まで情報教育の世界に携わってきましたが、初めて目にすることや聞くことが多く、大変勉強になっています。学んだことを活かしていけるように努力していきたいと思えます。
県内の広域の校種間で有意義な情報交換ができました。先生方とのネットワークができたことが何よりの収穫です。同校種3人で情報交換すればするほど、先生方の実践を拝見することが楽しみになりました。
同じ校種の方との交流が多いですが、今後互いの研究授業を参観させていただくにあたり、他の校種の方の実践についてもお聞きすることができるとありがたいです。
大変参考になりました。iPadや情報機器を実際に利用するのはノウハウの共有につながるので良いと思います。
有意義な研修をさせていただき感謝しております。自校に持ち帰り、情報機器関連の整備や普及に努めていきたいです。
iPadの活用法や情報モラル等の講義や演習・協議ができ大変勉強になりました。この研修を活かしていきたい。

(3) 第3回研究会のアンケート集計

① 調査研究「ICTを活用した授業実践の視察」

ア この授業参観で、新たな知識を得ることができましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ)
この中から1つ選んでください。

4の割合	9
3の割合	3
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



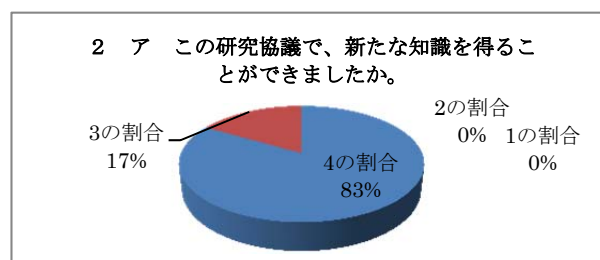
イ ICTを活用した授業実践の視察についてのご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

中学校英語科でどのようにICTを活用しているか、実際の様子を見ることができ、具体的なイメージをもつことができた。無線LAN環境での一斉ログインなど、先進校でも課題があることがわかった。
ICT環境がよく整っていると感じた。生徒が一人一台のタブレットPCを毎日携帯し、よく使いこなしている姿に驚いた。
日常的に機器が使用できる環境がうらやましい部分もありましたが、メンテナンス等、また別な面の負担もあるのかなと感じました。
良い授業を見学させていただき、ありがとうございました。協働学習とプログラミング、物作りで問題解決に当たる授業で、論理と作業のバランスや試行錯誤の過程に感銘を受けました。
一人一人がパソコンをノートのような感覚で使用している様子に驚いた。

② 研究協議「授業担当教諭との研究協議」

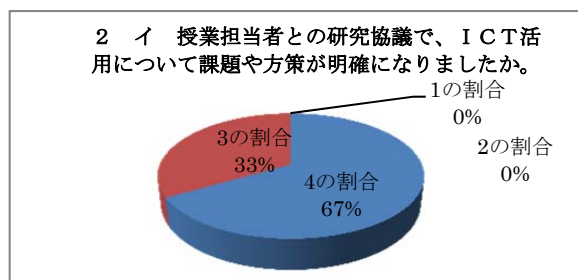
ア この研究協議で、新たな知識を得ることができましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ)
この中から1つ選んでください。

4の割合	10
3の割合	2
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



イ 授業担当者との研究協議で、ICT活用について課題や方策が明確になりましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	8
3の割合	4
2の割合	0
1の割合	0
合計	12



ウ この研究協議のご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

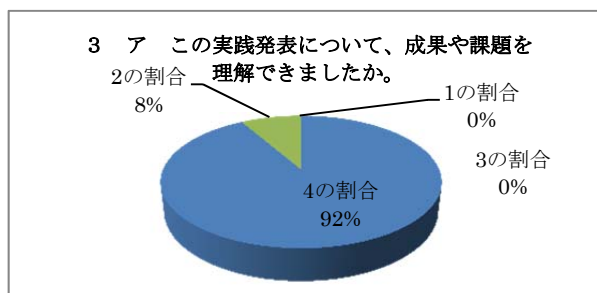
I C T支援員の必要性を強く感じました。
I C T機器の環境維持やトラブルへの対応で人的支援の必要性を実感した。新しいうちはまだいいと思うが、時間と共に故障が出ることもわかった。
現場の先生方の生の声が聞けて良かった。コラボノートには大変興味があったが、慣れてくると生徒に面倒に思われ不評というのは、意外に感じた。コミュニケーションツールとして、I C Tが効果的な手段として用いられる場面をさらに研究が必要と感じました。
機器と人材、双方を整えることが必要なのだと改めて感じました。いずれにせよ、それを負担する自治体の考え方が大きく I C Tの環境に影響するので、同じ県内でも格差が出ることは間違いないのだと思いました。
I C T機器の使用と話を聞く場面のメリハリが重要、という言葉が印象に残っています。
話し合ったり、情報交換をしたり協働的な学びが成立されていた姿が印象的でした。環境整備が大変であるとは思いました。
I C Tの設備を整えることや環境の維持には大変な労力がかかっていることが分かりました。

③ 研究協議「授業における I C T活用の研究」

ア この研究協議を通して、授業実践するための方策や課題が明確になりましたか。

4 (はい)・3・2・1 (いいえ) この中から1つ選んでください。

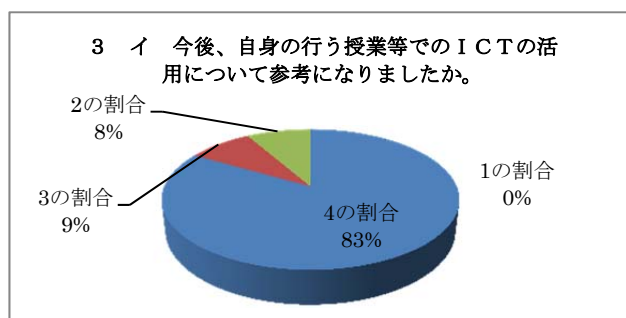
4の割合	11
3の割合	0
2の割合	1
1の割合	0
合計	12



イ この研究協議で、新たな知識を得ることができましたか。4 (はい)・3・2・1 (いいえ)

この中から1つ選んでください。

4の割合	10
3の割合	1
2の割合	1
1の割合	0
合計	12



ウ この研究協議のご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

他地域の先生方のご意見をお伺いし、このような I C T機器の使い方があるのかと感じた。実際の授業場面を見るのが楽しみになった。
校種間で情報を交換、協議できたことが何より参考になった。授業公開に参加できることが楽しみに感じた。
I C Tの活用という面に関しては、皆さんからアドバイスをいただき参考にすることができました。ただし、生徒に教科の力を付けさせるための I C Tの活用なので、そこが本末転倒にならないように気を付けなければならないと思いました。

I C T支援員も情報インフラの一部であることが分かりました。
皆様から、貴重なお話を伺うことができました。今後は校内で効果的なI C Tの利活用について、学校の教師間で協働して検討していくべきだと感じました。また、生徒からの率直な意見も取り入れていきたいです。
授業内容以外の部分でも活用に関わる情報が得られてとても有益でした。

④ 研究授業に関する質問

ア 研究授業を実施するに当たり、問題点や質問があれば記入してください。(※主な意見)

iPadを実践研究センターからお借りして授業をする計画を立てたが、妙高市ではネットワークに繋ぐことを断られてしまったので、別の方法を模索中です。今のところ、私が使っているモバイルルーターを使ってネットに繋がれるか試しています。
現在、整備されている環境の中で何ができるかを考える機会になりました。当日はよろしくお祈りします。
他の校種の方の授業を拝見できるとさらによいのではないのでしょうか。
機材の不具合が心配でした。

⑤ 一日を通して、ご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

定期的に研修会に参加することで、I C T機器の利活用だけでなく、今後の教育の方向も学ぶことができた。また、他地域や他校種の先生方と意見を交換する機会はあまりないので、大変貴重な場だと感じている。
県内の貴重な情報が交流できる時間であった。今後も下越・中越・上越と研修会場を設けることは、距離的に大変であるが、意義あるものだと感じる。
情報インフラと教育環境の維持はセットで考えなければならないことなど、校種は違いますが、I C Tの利用に関する共通点も多く大変参考になりました。
上教大附属中の授業実践とその周辺環境概要が具体的にわかりました。
特別な授業で使うのではなく、日常的に使えるような仕組みを作っていきたいと思いました。
普段私が勤めている学校環境とは全く異なる環境を参観でき、よい刺激になりました。また、指導案検討では、I C Tの活用という観点で指導案を検討するということが新鮮でした。

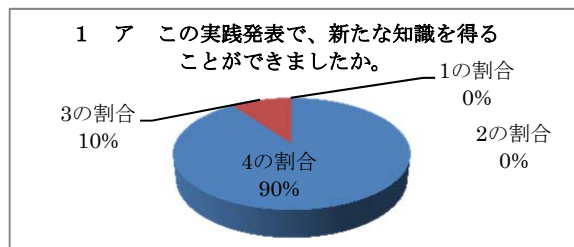
(4) 第4回研究会のアンケート集計

① 実践発表「I C Tを活用した授業実践の成果と課題について」

ア この実践発表で、新たな知識を得ることができましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ)

この中から1つ選んでください。

4の割合	9
3の割合	1
2の割合	0
1の割合	0
合計	10



イ I C Tを活用した授業実践の成果と課題について参考になったことや感じたことを記入ください。(※主な意見)

他校では、I C Tが整備されていない中で、工夫した実践が進められていること。
他の校種・教科の実践が聞けたこと。
機器の活用方法や使用するソフトについて新しい知識を得ることができた。特に、動画の活用の仕方が参考になった。

(あくまでツールの1つなので)教科のねらいに即してどのように活用することができるのかを試行錯誤して考えることができたのがよかった。「ICTの活用」の視点で他教科の先生方から意見をいただけたことがありがたかった。

ICTの活用が結果にどのように反映されるか、継続的な計測が重要だと感じました。

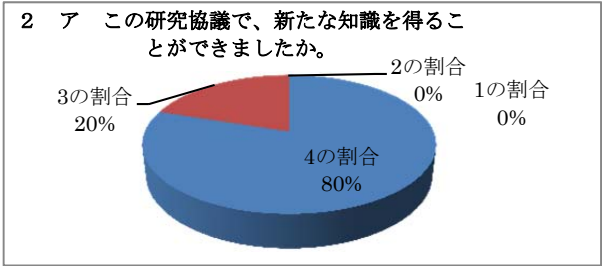
ICT(タブレット)を活用して、生徒の表現力を高める事例が参考になりました(小グループで繰り返し行うなど)。

ICTの活用と生徒同士の学び合いの授業は授業計画しやすいと感じた。ICTのトラブルについての考え方・対応など参考になった。

② 研究協議「研修プログラムについての効果や改善点について」

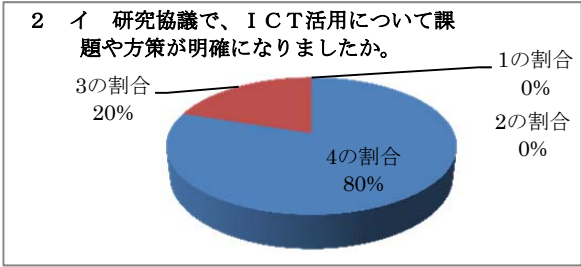
ア この研究協議で、新たな知識を得ることができましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	8
3の割合	2
2の割合	0
1の割合	0
合計	10



イ 研究協議で、ICT活用について課題や方策が明確になりましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ) この中から1つ選んでください。

4の割合	8
3の割合	2
2の割合	0
1の割合	0
合計	10



ウ 研修プログラムについての効果や改善点について考えたことや感じことを記入ください。(※主な意見)

子どもに使わせることのメリットを研究してきましたが、教師が使うことのメリット・デメリットについて、よく考えさせられた。

他教科の授業の視点が参考になった。今後は、すべての教科で共通して考える観点をはっきりさせたプログラムがあるとよいと思う。
例えばICT機器の効果的な活用方法、①「学習内容の理解」、②「共有」、③「情報の発信や表現」などを高めるにはどう使うかなど。

ICT活用のリーダーとして、校外で広めていくための研修もあるとよいと思います(ただし、ある程度の教職経験者を経た後の方が対象で)。

校種が異なる教諭の実践発表は聞いたが、実際に授業をみるのが大切であると感じた。授業を見て感じるどころから始められればよいと感じた。

このプログラム研究で求めていくべき教育像が見えてきた気がします。異なる学校種や教科での話し合いは刺激が大きく、得るものが大きかったです。

③ 一日を通して、ご意見・ご感想を記入ください。(※主な意見)

約1年間を通して研修させていただいたことを振り返ることができました。自分の授業はもちろん、これからICT機器をどう使ったらよいか考える機会となりました。ありがとうございました。

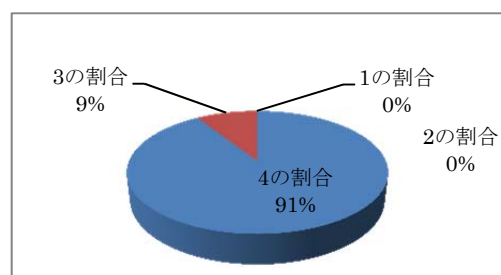
1年間大変ありがとうございました。今後も自分自身、試行錯誤しながら研修を深めたいと思います。
実践発表・研究協議に参加して、これまでの研修の振り返りができて、大きな経験ができた。
実践発表が2グループになってしまいましたが、他のグループの発表も聞きたいと思いました。
様々な校種の様々な話題や提案が聞け、参考になりました。
他の先生の実践について、詳しく知ることができてよかった。今後の実践の参考にしたい。

(5) 研究会全体を通したアンケート集計

● ICTを活用した授業

- ① 第1回研究会～第4回研究会及び研究授業(以下「研究会等」)で、研究授業を行うために必要な知識やアイデアを得ることができましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ)から一つ選んでください。

4の割合	10
3の割合	1
2の割合	0
1の割合	0
合計	11



- ② 研究授業や事後の協議を通して、得られた成果は何ですか。下の欄にご記入ください。(※主な意見)

生徒の主体的な学びを促進するためのツールとして、快適なICT機器の整備が必要であるということ。効果的なICTの活用事例は、多々あり、多くの先生方と情報交換できたことが良かった。自校に持ち帰り、早速実践してみたい。
今回 iPad 上で問題のやりとりをしたが、送受信がうまくいかず、時間をロスして、計画していたところまで授業を進めることができなかつた。ICTのトラブルに関していくつかの手段を選択肢として持って授業することを学んだ。
動画やイラストの提示は生徒の理解を高めることが分かった。ICT機器のみだけでなく、手順表やイラストも合わせて提示すると、より生徒の理解が高まることが分かった。
他校種の情報交換や授業参観により、ICT活用授業の知見が広がったこと。学校や市町村でICT活用環境に大きな差がある中で、子供たちの学びを高めるために、環境の構築に先生方が大変苦労しながら成果を上げていること。
外国語活動でのICT機器活用について具体的な実践ができたことです。実際に授業を行うことで、必要な環境や機材を考えることができました。実践では国際交流のためのビデオを作製しましたが、接続などの手間を考えると、一般の先生方にはタブレット端末が有効だと感じました。

- ③ 児童・生徒にとってICTを活用した授業はどのような効果があったと思いますか。下の欄にご記入ください。(※主な意見)

映像を並列して比較させることにより、気づきを得られやすくなり考察の深まりに繋がった。即時的に映像を使うメリットを確認できた。
学習者中心の授業を行うことができ、積極的に課題に向かって解決していこうとすることができる。このような学習意欲は、困難な課題にも挑戦し、他者ともコミュニケーションをとり解決していこうとする。学習意欲を高めることができることができることが活用する意義でもある。

学習内容への興味・関心が高まった（現時点では）。検証実験の結果を即時に表現活動につなげるなど、情報共有のツールとしての効果があった。教師が、生徒の学習状況を把握できるツールとしての効果があった。
タブレットPCと電子黒板・授業支援アプリの活用により、①学習意欲の向上、②見通しをもって考えることができる。（課題の把握、単元の見通し、解決への見通し、思考力判断力の向上）、③考えを伝え合うことができる。
外国語活動にICTを活用したことで、英語の音声を繰り返し聴くことができた。英語を話している自分たちの姿を客観的に評価することができた。インターネットを利用して、交流先の先生と会話をすることができた。ICTを活用することで、英語に親しむ機会が増え、また交流を通して活動への動機付けも高まりました。

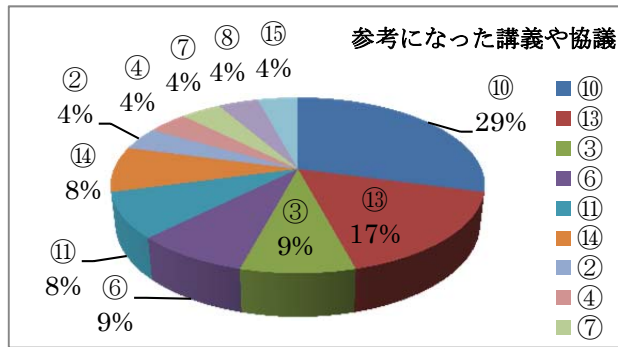
④ ICTを活用した授業を行う際に、どのような問題点がありますか。また、それに対してどのような工夫を行いましたか。下の欄にご記入ください。（※主な意見）

デバイスの確保、設定までにかかる時間・起こりうるトラブルを先読みして計画を立てる必要がある。また、計画立案時に運用ポリシーなどにより利用の方法に制約が生じる点をあらかじめ承知しておく必要がある。
iPadの問題の受け渡し。今回に関しては、知識不足で受け渡しの仕方が分からなかったが、これからは、複数の選択肢を準備しておく必要があると感じた。
水、熱、汚れを防ぐための手立てが必要であった。校内のネットワーク環境が不十分であった。動画編集を1台ずつ行う必要があり、煩瑣であった。
ICT機器の環境整備に金銭的、時間的に制約がある。→助成金を活用した。他の先生方が使わない。→日常から実践を発信したり、公開授業を参観してもらったりした。
機器や教具の特色を生かした使い方をどうするか。スクリーンは生徒が必要に応じて見られる内容。黒板は生徒の発言や授業の流れに沿った内容。Skyメニューによる送信画面は素早く細かい情報を提示すると有効。
子どもの学びの記録（ワークシートやホワイトボードの内容等）を拡大提示する際の書かせ方や、写し方への細かい配慮の難しさ。板書との併用・融合についての工夫。

⑤ この研究会等のどの内容が、ICTを活用した授業を実施する際の参考になりましたか。下記①～⑰から選んでください(複数可)。その理由を下の欄にご記入ください。

番号	数量
⑩	7
⑬	4
③	2
⑥	2
⑪	2
⑭	2
②	1
④	1
⑦	1
⑧	1
⑮	1
合計	24

ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会1	
①	全体ガイダンス 研修の流れ、進め方について、教科指導におけるICT活用と本県の現状・課題について
②	講義「学校教育における情報化及び国内外の取組の様子」
③	実践発表「ICT活用した授業の成果について」
④	調査研究「各学校におけるICTの活用に関する現状と課題」
⑤	説明「上越教育大学のSNSの活用について」
ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会2	
⑥	講義「ICTの授業活用の実践について」
⑦	研究協議「ICTの授業活用について」
⑧	講義・演習「学校における情報モラルに関する事例検討」
⑨	研究協議「各学校の情報モラルに関する現状について」
ICT活用リーダー養成研修プログラム 上教大での研究会3	
⑩	調査研究「ICTを活用した授業実践の視察(上越教育大学附属中学校)」
⑪	研究協議「授業担当教諭との研究協議会」
⑫	研究協議「授業におけるICT活用の研究」
ICT活用リーダー養成研修プログラム 公開研究授業	
⑬	ICTを活用した公開研究授業
⑭	研究協議
ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会4	
⑮	実践発表「ICTを活用した授業実践の成果と課題について」1 実践発表「ICTを活用した授業実践の成果と課題について」2
⑯	研究協議「研修プログラムについての効果や改善点についての協議」
⑰	大学教授による指導・講評



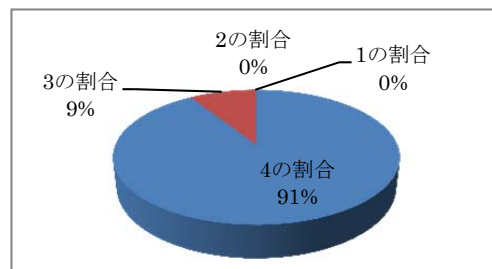
主な理由

先進的な取り組みやICT環境、その中で学ぶ生徒たちの様子が間近に見られ参考になったから。
中学校のICTを活用した授業を見学することによって、新しい授業形態を見ることができ、自分の授業の幅が広がった。
⑬⑭自分の授業を客観視できた。専門的な立場から講評をいただくことができた。⑮自分が使っている機器以外のものを活用している授業実践に触れることができた。
実際に活用している生徒の様子や反応が、自分の実践にも参考になった。
やはり私たち教師の力量は授業によってははかれると思うので、実践を目にすること、そして自分がやってみることが一番の学びになると思う。
「百聞は一見にしかず」外部の情報を実体験できるのが、この研修のすばらしいところ。県内の学校のICT活用授業を参観協議でき、大変参考になった。

● ICT活用に関する知識の習得

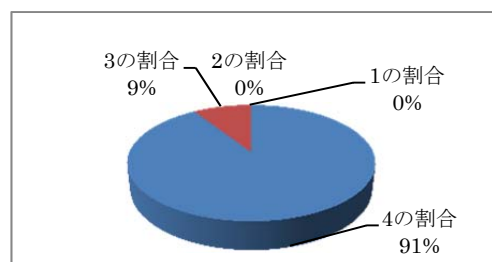
⑥ 研究会等の内容で、学校教育や国内外におけるICT活用の現状、あるいはこれからの方向性に対する認識は深まりましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ)から一つ選んでください。

4の割合	10
3の割合	1
2の割合	0
1の割合	0
合計	11



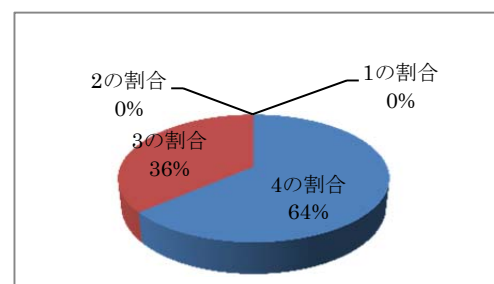
⑦ 実践校（上越教育大学附属中学校）の視察によって、ICTを活用した授業実践に対する理解が深まりましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ)から一つ選んでください。

4の割合	10
3の割合	1
2の割合	0
1の割合	0
合計	11



⑧ 情報モラルの講義・演習から、情報モラル教育の理解が深まりましたか。4(はい)・3・2・1(いいえ)から一つ選んでください。

4の割合	7
3の割合	4
2の割合	0
1の割合	0
合計	11



● ICT活用を推進するためのリーダー的役割

- ⑨ ICT活用のリーダーとして必要だと思われる知識や技術は何ですか。下の欄にご記入ください。(※主な意見)

要求定義を組み立てる力・WBS(ワークブレイクダウンストラクチャー)を構築する力・補助員がいない時はハードウェア・ネットワークトラブルを解決する知識が必要。
苦手意識を持つ先生たちに、快適に使用できる環境を整え、効果を実感できる具体例を示すなど。
誰もが無理なくできるICTの活用を実践して紹介する。ICTに関して困っている教員に気軽に声をかけ、教える。
ICTを活用して、非活用授業よりも効果的な授業展開をできる技術、不具合が生じたときに対応できる技術、ユニバーサルデザインの知識。
機器の知識、活用方法に関するアイデア、他の職員や他校、研究組織とのコミュニケーション。
自分自身が活用に長けていること。様々な活用方法を蓄積していること。広めていくために、積極的に「難しいことではなく誰にでもできるもの」だと周囲に発信すること。

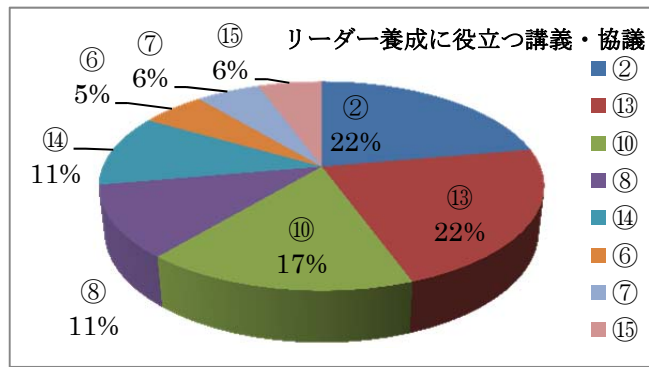
- ⑩ 校内や近隣の学校などでICTの活用を推進するために必要だと思われることは何ですか。下の欄にご記入ください。(※主な意見)

ICT補助員の確保、電子会議、機器(タブレット・ネットワーク)・ソフト(データベース)のインフラ整備。
ICTをまず活用してみる。活用した上でICT活用の利点や欠点を学び、情報を発信する。また、ICTを活用した授業を公開して、実際に授業を参観してもらう。
学力観の再構築(知識獲得型→獲得知識活用型)、環境整備とロールモデル、生徒や保護者からの要望。
活用、実践する教員を多くする。活用したいと思わせるアイデアを提供する。
ICTは難しいという印象をもつ方が少なからずいるので、「難しいことではなく誰にでもできるもの」と周囲に印象づけられるよう、分かりやすく発信すること。
ICT環境の公平な整備とICT支援員の配置(必ずセットで)。

- ⑪ 研究会等の中のどの内容が、ICT活用のリーダー育成に役立つと思えましたか。下記①～⑰から選んでください(複数可)。下の欄にご記入ください。

NO	数量
②	4
⑬	4
⑩	3
⑧	2
⑭	2
⑥	1
⑦	1
⑮	1
合計	18

ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会1	
①	全体ガイダンス 研修の流れ、進め方について、教科指導におけるICT活用と本県の現状・課題について
②	講義「学校教育における情報化及び国内外の取組の様子」
③	実践発表「ICT活用した授業の成果について」
④	調査研究「各学校におけるICTの活用に関する現状と課題」
⑤	説明「上越教育大学のSNSの活用について」
ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会2	
⑥	講義「ICTの授業活用の実際について」
⑦	研究協議「ICTの授業活用について」
⑧	講義・演習「学校における情報モラルに関する事例検討」
⑨	研究協議「各学校の情報モラルに関する現状について」
ICT活用リーダー養成研修プログラム 上教大での研究会3	
⑩	調査研究「ICTを活用した授業実践の視察(上越教育大学附属中学校)」
⑪	研究協議「授業担当教諭との研究協議会」
⑫	研究協議「授業におけるICT活用の研究」
ICT活用リーダー養成研修プログラム 公開研究授業	
⑬	ICTを活用した公開研究授業
⑭	研究協議
ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会4	
⑮	実践発表「ICTを活用した授業実践の成果と課題について」1
	実践発表「ICTを活用した授業実践の成果と課題について」2
⑯	研究協議「研修プログラムについての効果や改善点についての協議」
⑰	大学教授による指導・講評



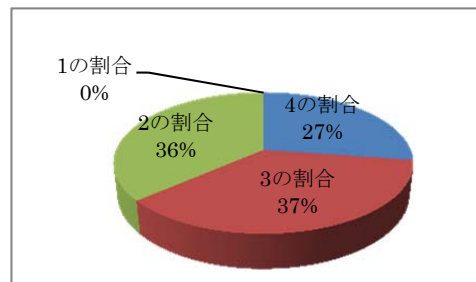
主な理由

海外の取り組み、国内の先進的な取り組みなど広い視野から情報化の現状を知ることができ、危機感を感じたから。
校種が異なる公開研究授業の実践発表を聞いたことにより、ICTの活用の工夫を学ぶことができた。
既知の知識が多かったが、改めてICT活用リーダー育成研修として、一般論でいえば役立つのではないかと思う一方、どのようなリーダー観に立っているのかが、未だに不明確なため。
実践を目にすること、そして自分がやってみることが一番の学びになると考えたため。
まず、先進的な取り組み、講義、参観を行うことから現状を振り返ることが必要である。

● ICT機器やクラウドの活用

⑫ 研究会等において SNS の利用は、有効でしたか。4(はい)・3・2・1(いいえ)から一つ選んでください。

4の割合	3
3の割合	4
2の割合	4
1の割合	0
合計	11



※ どのような点で有効であったのか、また有効に感じなかったのか具体的に下の欄にご記入ください。(※主な意見)

自宅からもセキュリティを保った状態でアクセスできるのが一番助かった。
日常でほとんど使っておらず、体験できたことがよかった。情報共有が簡単にできるので、生徒間でも評価などのコメントを書き込むなどして使わせたいと思いました。
自分の含め意見交換がなく、ただ閲覧、アップロードしているだけだった。
メール等の送信に比べて簡単であった。他の参加者のデータ等も閲覧することができた。
今までにない新しい方法で情報共有ができたことが有効だった。ログインが手間だったため、あまりみなさん閲覧しなかったのでは・・・。
◎SNSを導入したこと 距離や時間に縛られずに情報交換できる環境(SNS)を導入したことに価値があると思います。今回は研修の感想や課題の提示が中心でしたが、情報交換の場としての可能性を感じます。 △使い勝手について 既存のSNS(例えばfacebook)などに比べると、使い勝手がよくないように感じました。ただ、これは、このSNSの操作に慣れていないだけかもしれません。

- ⑬ ICT機器の活用方法について、研修プログラムに盛り込んだほうがよい内容はありますか。下の欄にご記入ください。(※主な意見)

活用方法に関わる問題点が解消できるような情報交換。
おすすめのアプリケーションやICT機器を実際に使用してみる機会があるとありがたい。
情報モラルの研修や国内や国外の現状や実践を知る研修は、良い機会となった。ICT機器の活用方法は、各校で環境や状況が違うので、この研修プログラムの中で行うのは、不可能では？
○与えられた条件で授業の案を考えてみる。例…タブレット端末が各班に1台ずつ。デジタルテレビ、実物投影機が教室に1台。どの教科でどんな活用が考えられるか、校種毎に協議して発表。 ○情報教育の年間指導計画作成。例…小～特別支援が一人ずつ入ったグループを作り、大まかな情報教育の年間指導計画を作る。「小学校でこんな内容を」「高校では…」とさまざまな校種の視点から見て作成し、発表。

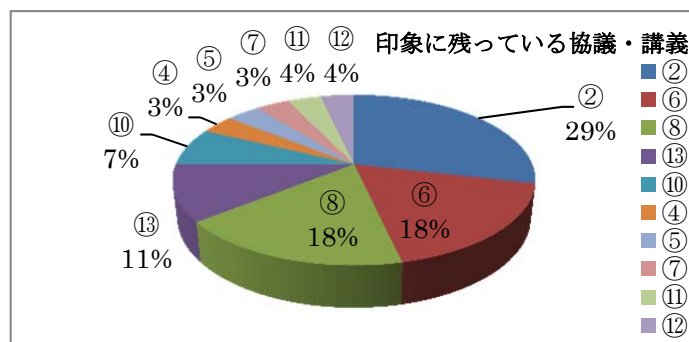
- ⑭ 各校のICT機器の整備状況から、クラウドやSNSの活用も含めどのような環境整備が必要であると考えますか。下の欄にご記入ください。(※主な意見)

電子会議のインフラ・USBを持ち歩かなくともよいリモートディスク、校務処理データベース。
インターネット環境の整備が必要。iPad用の無線LANルーターを使用すると、教室の回線がパンクをするようではよくない。
クラウドは、個人で運用している。校内外の整備はまだ進んでいない。SNSは生徒の方がかなり活用している。教師も使ってみることで、メリット・デメリットを研修する必要がある。
各機器の台数増。
タブレット、電子黒板(全教室)、授業支援アプリ(クラウドの活用)。

●講義

- ⑮ 第1回研究会から4回研究会の中で印象に残っている講義等は何ですか。下記①～⑰から3つあげてください。

		ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会1
N0	数量	① 全体ガイダンス 研修の流れ、進め方について、教科指導におけるICT活用と本県の現状・課題について
②	8	② 講義「学校教育における情報化及び国内外の取組の様子」
⑥	5	③ 実践発表「ICT活用した授業の成果について」
⑧	5	④ 調査研究「各学校におけるICTの活用に関する現状と課題」
⑬	3	⑤ 説明「上越教育大学のSNSの活用について」
⑩	2	ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会2
④	1	⑥ 講義「ICTの授業活用の実践について」
⑤	1	⑦ 研究協議「ICTの授業活用について」
⑦	1	⑧ 講義・演習「学校における情報モラルに関する事例検討」
⑪	1	⑨ 研究協議「各学校の情報モラルに関する現状について」
⑫	1	ICT活用リーダー養成研修プログラム 上教大での研究会3
合計	28	⑩ 調査研究「ICTを活用した授業実践の視察(上越教育大学附属中学校)」
		⑪ 研究協議「授業担当教諭との研究協議会」
		⑫ 研究協議「授業におけるICT活用の研究」
		ICT活用リーダー養成研修プログラム 公開研究授業
		⑬ ICTを活用した公開研究授業
		⑭ 研究協議
		ICT活用リーダー養成研修プログラム 研究会4
		⑮ 実践発表「ICTを活用した授業実践の成果と課題について」1
		実践発表「ICTを活用した授業実践の成果と課題について」2
		⑯ 研究協議「研修プログラムについての効果や改善点についての協議」
		⑰ 大学教授による指導・講評



- ⑩ ICT活用のリーダーを育成するために、必要な講義等は何だとお考えですか。下の欄にご記入ください。（※主な意見）

ICTを利活用した現場の実態に合わせ授業研究を行い、講評や指導をいただくこと。
実践校の問題点を吸い上げ、それに対する解決策について。
情報機器の使い方に関する講義、実践の様子を見学する。
ICTの活用について、世界や日本における現状とこれからのあり方を知ること。
②の講義の中で、石野先生から他国のICTを活用した授業の様子や機器が紹介されました。今後、コンピュータを中心としたICTは飛躍的に進歩すると思います。そこで、 ・進んでいる他国の現状を具体的に紹介する ・10年20年先のテクノロジーを使った学校像について紹介するなどの講義があればと考えます。ICT活用のリーダーとなるならば、これから先の世界について具体的なイメージをもつことも必要なのではと思います。

●この研究会の成果と課題

- ⑪ モデルカリキュラムの研究協力員として、期待した研修効果は何でしたか。下の欄にご記入ください。（※主な意見）

様々な校種の実態を把握すること。それをもとに今後の展開を考察すること。
職場でICT活用において無理のない快適な環境整備を提案し、アドバイスができるようになること。
様々な学校（種）におけるICT活用授業実践状況。
タブレット端末の活用方法。
情報機器に関する知識の獲得、校内における情報機器活用の推進。

- ⑫ モデルカリキュラムの研究協力員を経験して、成果があったこと、新たな課題と感じていることがあれば下の欄にご記入ください。（※主な意見）

苦手意識を持つ教員に対して、どう働きかけをしたら効果を実感できるかという使用例がわかった。新たな課題は、ICTとかかわる生徒とのかかわりかた、支援の方法を考えていきたい。
他校の実践を自校でも行うことができた。
様々な知識を得ることができた。校内や圏域での活用推進に向けた方策（環境整備、機能の選別、伝達講習等）を取る必要がある。
機器の特色を生かした有効な活用方法について考えを深めることができた。今後新しい機器をどのように活用すればよいか。
様々な実践を目にしたこと、そして自分が試行錯誤したことが一番の学びでした。
苦手意識より知りたい、分かりたいと思う気持ちが大きくなった。子供の喜ぶ姿が大きなエネルギー。

- ⑱ ICT活用のリーダーを育成するために、研修会は年何回必要だと考えますか。また、会場はどのような場所・地域が適切であると考えますか。下の欄にご記入ください。(※主な意見)

忙しくなるが今回のように5回程度は必要だと思う。電子会議を利用し、移動時間を減らすのも一つの手段であると思う。
今回の研修のようで良いと思います。
3回で、県立教育センターと実践校。
今年度並の回数でよい。上・中・下越の各場所であってもよい。
年5～6回程度。

- ⑳ 最後に、自由にご意見や感想などご記入ください。(※主な意見)

この研修を受けてICTに関して、校種が異なる指導法を知ることができて自分の指導の幅が広がった。
ICT活用については、もっと積極的に推進するのであれば、その状況や効果、必要性について発信を行っていくべきだと思います。学力向上効果と対費用効果が大きな鍵となると思いますが、前者については獲得知識活用型学力観が浸透しないと厳しいのではないのでしょうか。推進派の教員が思うほど、保護者や生徒は必要性を感じていないのではないかと思います。それは学力評価とICT活用授業の効果が合っていない現状を反映していると思います。
実践を見ると、活用方法と生徒の実際の様子がわかり、今後の参考になると考えます。授業公開にもっと多くいければと思いました。
大変勉強になった。リーダーになれているのかどうかは分からないが、まずは校内におけるICT活用の推進に力を入れていきたい。
小・中・高・特が一堂に会して、研修を行えたこと、新しい出会いがあったことに感謝します。

5 モデルカリキュラム開発プログラムの実践からの成果と課題

5日間の研修は、かなり濃い内容であった。毎回のアンケートと研究会全体から特徴的な点を挙げていくと、①講義全体に関すること ②ICTを活用した研究授業に関すること ③リーダー養成に関すること ④ICTの活用を普及すること ⑤SNSの利用に関すること ⑥他校種を交えた研修に関することの6つがある。以下、この6つの点を述べる。

① 講義全体に関することについて

このプログラムで行った講義等の理解や知識の活用については、ほぼ【4(はい)】を選んでいたので、評価が高かったといえる。ただし、「SNSの活用」や「情報モラルの講義」については他に比べ少し評価が低かった。

SNSについては後程考察するとして、ICTの活用を推進するリーダー養成講座において、リーダーの資質として情報モラルの研修は必須の内容である。また、「情報モラルの講義」については昨今様々な問題が学校現場で取りざたされているため、多様な対策が必要である。そのため、今回の研修のみでは、内容が少なかったことが評価を下げた一因と考えられる。県立教育センターでは情報モラルの研修を別の研修として実施しているので、今回は学校現場の様々な状況に応じた研修内容までは実施できなかったため、評価が分かれたと思われる。

ICTを活用した授業を実施する際に参考になった講義等は、【調査研究「ICTを活用した授業実践の視察」】であった。上越教育大学附属中学校の視察であるが、実際の授業を見て参考にな

る部分が多かったと思われる。また、印象に残っている講義等は、【講義「学校教育における情報化及び国内外の取組の様子」】であった。連携している上越教育大学の石野教授の講義で、国内外のICT教育の状況がよく理解でき参考になったと思われる。

② ICTを活用した研究授業について

実際にICTを活用した授業実践を実施してもらうことで、ICTの活用をじっくりと考えてもらう内容となった。学校によっては、先進的なICT機器がそろっているところもあれば、独自に機器を準備した学校や、今ある機器で工夫した授業を行った学校など様々であった。しかし、研究協力員の工夫で、多くの成果が見られたとされる意見が多かった。互いの授業を見ることで参考になる部分も多くあったという意見も出ている。

また、今回は研究協力員が自校で研究授業を行うことと、他の研究協力員の授業を1校だけ参観できる予算措置を行っていたが、できれば全部参観できる方がよいという意見が多く出された。実際に授業を見ることで得られる部分も非常に大きいことから、今後はなるべく多くの授業を参観できるように配慮する必要がある。

③ リーダー養成について

リーダー養成を目的とした教育研修プログラムの開発であったが、今回この部分がやや弱かったように思う。「研究会等の中のどの内容が、ICT活用のリーダー育成に役立つと思いませんか。」という質問については、大学教授の【講義「学校教育における情報化及び国内外の取組の様子」】と研究協力員自らが行う【ICTを活用した公開授業】が多かった。やはり、実際の活用方法を示していく中でこそリーダー的な資質を高めることができると想定される。全体の研修の中で、リーダーがなすべき役割や、どのように他に示していくかなどの具体的な方策までは研修の内容に盛り込めなかったため、今後の研修のあり方の課題といえる。

④ ICTの活用の普及について

これについては「③ リーダー養成について」と同様のことがいえる。リーダーが担う役割の一つにICTの活用について推進・普及していくことが挙げられる。特にこの普及については、今までICTを活用していなかった教員や苦手意識を持つ教員に対しての対策が必要で、その点をカバーする講義や協議などが不足していた。このICTの活用の普及についても次回の課題といえる。

⑤ SNSの利用について

今回、アンケートの回答で、一番評価の分かれた項目である。個人のアカウントを作成し、1年間のみ上越教育大学の学校教育実践研究センターのSNSを利用させてもらった。実際に学校以外でも連絡や課題の共有ができるなど便利な面もあったが、操作性や不慣れな部分もあり、あまり活用が進まなかった。使い勝手の問題もあるので、SNSが一概に悪いとはいえないが、効果的に活用するためには様々な工夫が必要だと感じられる。教員間で利用するのであれば、それを目的としてカスタマイズしたものが用意できれば、活用の頻度も上がると思われる。また、新規の連絡があった場合や、教材等のデータが新たにアップロードされた際にアラートが上がる機能があれば、より活用されたのではないだろうか。

今後は、企業が利用しているSNSのサイトを活用することも含めて検討する余地がある。例えば、FacebookやOffice365、Google Appsなど教育機関で利用できるSNSやグループウェアも多数あるため今後検討したい。

⑥ 他校種を交えた研修について

研究協力員として、小学校3名、中学校3名、高等学校4名、特別支援学校2名の合計12名の教員に協力いただいた。校種の違う教員でICTの活用について研究協議を進めていくことで、今までにはない発見や取組ができたことと好評価であった。また、教科・科目も多種にわたっていたため、ICTの活用について様々な活用方法を互いに学ぶことができた。校種や教科が違う中でも、ICTの活用という共通のキーワードから児童・生徒同士の学び合いや協働学習といった手法に、共通点を見出すことができた。また、小・中・高・特別支援それぞれで、ICT機器をどのように整備していくか等の共通する問題点や、目的にあったアプリケーションやソフトウェアの利用が必要な場合の対応など今後の研修で実施していきたい。

全体を通してみると、ICTを活用推進するためのリーダー養成研修として、教員のICT教育に関する意識の変化や活用指導力の向上が成果として得られた。この成果を基に、次年度に新しいICTに関する研修・講座を立ち上げる予定である。また、ここで出てきた課題については、次年度以降にさらに調査研究を行いたい。

今回の研究授業については、特別支援学校以外でビデオ撮影している。この資料を今後のICTに関する研修で利用していくことが考えられる。研究協力員からの言葉で、実際に授業を見ることで参考になる部分が多いことから、ICTを活用した授業実践を映像で見ることができるようアーカイブ化しておくことも有効である。

III 連携による研修についての考察

上越教育大学は、教員養成系大学として多くの教員を輩出している。また、現職の教員が学べる場所でもあり、様々な情報と教員研修のノウハウを持っている。今回は、ICTに関する研修のモデル開発を連携して行ってきた。上越教育大学附属中学校は、総務省のフューチャースクール事業に取り組んでいた学校でもあり、視察などでは多くの成果が得られた。実際にICTを活用している現場の学校として今後も紹介していきたいと考えている。

また、上越教育大学の石野教授はICT教育の研究の第一人者である。様々なICT教育に関する情報や国内外の状況などを研修の場で提示していただいたことで、研修の中身が非常に濃いものとなった。研究協力員の研究授業についても、他の准教授らと一緒に参観し授業についてのアドバイスをいただくことで、研究協議がより深いものとなった。さらに、上越教育大学の学校教育実践研究センターのSNSを活用しその効果について検証することができた。

このような状況から見ても、上越教育大学と連携することによって得られた成果は非常に大きく、実際の教員現場のニーズと大学の研究成果を取り入れた研修を開発していくことは、双方に大きな成果が期待できる。特にICTに関する情報や教育については、当県立教育センターで包括的に研究する場が十分でないため、得られる成果は重要だと認識している。

今後は、ICT教育を推進普及するために様々な研修・講座の開発が必要であると感じている。そして、より多くの教員に対してICTの活用推進のための研修を実現するために、上越教育大学

との連携はますます重要となってくる。

IV その他

[キーワード]

タブレットで協働学習 教師が子供の情報共有 iPad スムーズな環境整備 子供は伝えたい生き物 考える授業への転換 情報モラル 情報共有 情報発信 学び合い タブレット端末 まずは使う ICT 教科指導における活用 協働学習 超情報化社会 様々な活用方法 ツール ネットワーク 愉しむICT活用 だれでもできるICT

[人数規模] B. 11人から20名

[研修日数(回数)] C. 4～10日(5日間程度が適当)

【問い合わせ先】

新潟県立教育センター

教育支援課 教育企画班担当

〒950-2144 新潟県新潟市西区曾和100番地1

電話：025-263-9014 Fax：025-261-0006

E-mail：yamashita.koji@pref.niigata.lg.jp

URL：<http://www.nipec.nein.ed.jp>